

山本友子は、企業・団体からのしがらみがありません。だからこそ議会の中でもきっぱり大胆に発言しています。

index

- 1 面 私の県議会議員としての4年間
- 2 面 福祉 子ども
- 3 面 環境 防災・危機管理 政治とカネ
- 4 面 「ひとこま友子」諷刺画傑作選

山本友子の 県議会報告



県議会議員 山本友子



2011年3月11日の大震災直後に行われた前回の選挙。津波被害のすさまじさ、福島第一原発事故の恐怖と安全神話への怒り、余震の不安、被災者支援など、様々な葛藤に押しつぶされそうになりながら選挙活動を行い、当選させていただきました。

その後は、コンビナート工場地帯を抱える市原市の危機管理のあり方や避難のあり方を訴え、被曝に怯える子どもたちの健康調査の必要性を訴え、脱原発運動を展開してきました。全国に離散しつ

大震災とともに始まった4年間

地域の主役は「市民」 だから市民目線100%で戦ってきました

市議として2期、県議として2期、今ここで暮らす人の暮らしと環境を守り戦ってきました。現場に行く、弱者の声を聞く、とことん調べる、きっぱり発言する、これが私の持ち味です。これからも引き続き「女は度胸」で、がんばります。

故郷に帰ることできない福島県民への支援活動も行ってきました。

千葉県も津波被害で甚大な被害をつけ、東葛地区では放射能汚染が広がりました。今その放射性廃棄物の最終処分先を県内のどこにするか、市にとっても重大な課題であるため市民と勉強会を重ねています。

市原の福祉を どこよりも充実させたい

これまで市民ネットワークはあくまで地域にこだわりの、福祉・環境・教育・まちづくりなどの課題を市議会、県議会で訴えてきました。障がい者福祉の立ち遅れた市原で、福祉作業所を次々と誕生させ、さらに療育の必要性、特別支援教育の改革などを訴え一步一步前進させてきました。

また高齢化社会の到来を予測し、誰もがその人らしく住み慣れたまちで暮らし続けられるまちづくりをめざしてきました。だからこそ今後は、医療・介護・福祉が連携する仕組みをこれからのまち

づくりの礎（いしづえ）とするため活動します。

産廃残土問題に 引き続き全力で取り組みます

市原の産廃残土の不法投棄現場は、かつて関東全域からの「三捨」場のようなありさまでした。市民ネットワークが粘り強く訴え続けた結果、不法投棄件数は20分の1に激減。しかし負の遺産はそのままだ。新しい残土処分場計画は今後も後を絶ちません。市原の水と緑を守るため、今後も全力で不法投棄対策に取り組みます。

課題は山積み！ 引き続きがんばります

地域防災への取り組み、市民ネットワークが市原で誕生させてきた学童保育の更なる充実、保育所の拡充、千葉県や市原の歴史文化遺産の掘り起こしなど、まだまだやりたい課題は山積みしています。次の4年間も、市議2期、県議2期の経験と実績を活かして「女は度胸」で、がんばります。



2012.5.11 重度の行動障がい者の施設、北海道「はるにれの里」を訪問し、千葉県の今後の施設のあり方を学ぶ。



2014.4.22 基地問題に揺れる辺野古のテント前で小沢みか市議と。沖縄県民の心を受け止めたい。



2014.5.9 成田市の発達障がい者の支援施設「しもふさ学園」。市原にも作りたい。



2014.5.29 茂原の東上総児童相談所。虐待等の対策で児童相談所の職員はどれも超ハード勤務でがんばっている。



2014.9.27 市原カインズ前で毎月行っている脱原発パレード。子どもの未来を守りたい！



2014.11.7 福島 鮫川村の放射性廃棄物処理現場を視察。千葉県内の処分場計画の今後を監視します。



2014.11.11 集団的自衛権行使に反対する国会前デモに参加。戦争のできる国にすることはまっぴらです。



2015.1.20 産廃が放置された市内の現場に立つ。負の遺産処理の問題にも取り組みます。

福祉

退院後の暮らしを支える 地域包括ケアシステム



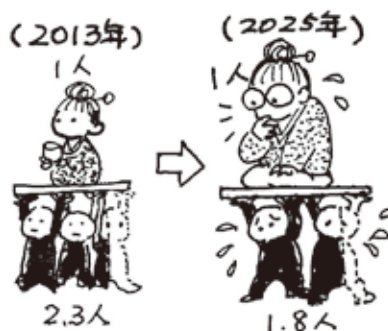
もしも緊急に入院して手当てを受け、無事退院したとします。しかしその後の暮らしを支える仕組みがないと病院に逆戻りになります。入院と同時に退院後の日常生活をどう支えるかを入院中から検討することが大事です。病气予防・病院でのケア、退院後の暮らし

保健 (予防医学)
1次予防
2次予防 (健診)
3次予防 (再発予防)

医療
入院 急性期
通院 回復期
訪問 維持期
緩和ケア

介護・福祉
入院
通所
訪問

利用者



しのサポートまで考えた地域連携の仕組み、それが地域包括ケアシステムです。千葉県でも平成25年から在宅医療の拠点づくりの予算があります。平成27年度は7市（松戸や市川など）の拠点に6130万円の予算がきました。残念ながら市原は含まれておらず、取り組みは遅れています。超高齢化は待ったなし！

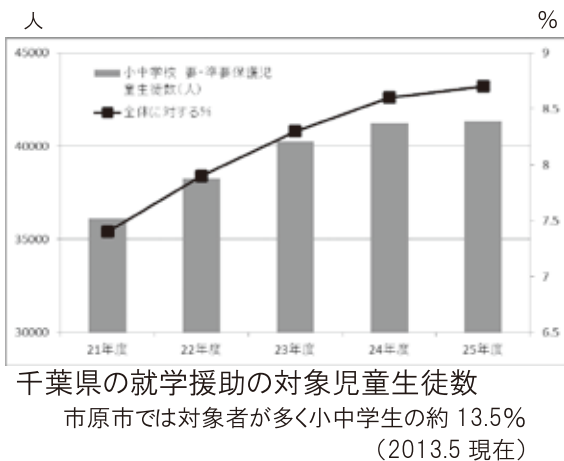
子ども



すべての子どもに
学びのチャンスを！

就学援助制度の充実

生活保護世帯ではないけれど経済的に苦しい世帯（準要給保護世帯）が増えています。でも援助金を出すための認定の基準が厳しくなつて受けられない人も増えています。家庭の経済事情で子どもが学ばない機会が奪われることのないように、今後も市に働きかけていきます。



學習支援事業
(平成27年度予算)

経済的な理由で学習に遅れが生じている子どもたちのために、NPO法人や大学生のボランティアが学習支援を行う事業が全国で始まり、すでに千葉市をはじめとする9市で生活保護世帯の中学生を対象に学習支援を実施しています。平成27年度からは市原でも事業がスタートします。議会で訴えてきた事業の開始は嬉しいニュース



法の確立を求め、被害者支援活動を今後も続けます。

(3月の市原市議会では、子宮頸がんワクチン被害者支援を求める意見書が採択されました！)



です。

これからも産廃・残土問題に取り組めます



市原は今も産廃・残土の不法投棄の負の遺産が市内各地に山積みとなっています。また千葉県残土事業の許可件数のうち、処分場面積の 36%が市原であることも前回お知らせしました。汚染土が混入するかもしれない残土処分場計画には今後も断固反対します。

あの残土処分場計画はその後どうなった？

鶴舞地区の2ヶ所の 残土処分場計画



鶴舞地区にずらりと並ぶ
「残土埋立て反対！」の旗

鶴舞地区では、2か所で残土処分場計画が勃発し、昨年周辺住民がこぞって反対を表明、県議会に請願書を提出しました。市原選出の県議会議員3人がその請願の推薦人になり毎回議会会で審議してきました。住民の粘り強い働きかけで、計画は現在ストップしています。今後も議会ですっかり取り上げていきます。

特別支援学校(能満)の 隣接地の残土処分場計画

周辺はほとんど市有地だと言ったことが判明し、県と市に強く働きかけた結果、当初の計画はストップしました。今後はせっかくの市有地なので県と市が協議して特別支援学校の過密化解消に向けて活用できるよう働きかけていきます。

放射性廃棄物(指定廃棄物)の 最終処分場が 市原に？

放射性セシウム8000ベクレル超の放射性廃棄物(指定廃棄物)の最終処分先を県内一箇所につくるとすればどこか。市原になるかもしれないと心配し、2月に現在の計画見直しを求めて市民有志と環境省と千葉県環境部に出かけました。私たちの主張は「東電と国が責任をもって処分先を検討すべきであり、放射能汚染の少なかつた地域に最終処分場を押し付けるべきではない」というものです。

2月8日には、栃木県の処分場計画の候補地となっている塩谷町の町長を招いて、「町の反対運動について」学習会を開きました。大勢の皆さんの参加に感謝！



塩谷町に送る激励の横断幕(山本が描きました)を掲げる町長と山本友子



指定廃棄物の最終処分場の問題で揺れる栃木県塩谷町の皆さんと放射性廃棄物を考える市原市民の会

防災・危機管理

大規模震災に備えて

コンビナート地帯を擁する市原には、他市とは違った危機管理体制が必要です。臨海部工場地帯の施設の老朽化対策や液状化対策について議会でも訴えました。

議会が変われば政治も変わる

国会を騒がせている政治とカネの問題。かつてバブル全盛期には千葉県庁でも裏金づくりのための不正経理が横行していました。議員のお手盛りの海外派遣も止まりません。

政治とカネ

避難所対策に弱者の視点を

あまり報道はされませんでした。が、東北大震災の時、避難所に障がい者の居場所がなかったり、壊れかけた家に残った女性が暴行を受けたケースがあったなどの報告がありました。弱者が守られる避難のあり方を具体的に話し合った



福島いわき市の避難所

めに女性や障がい者を交えた避難所運営のあり方を議会でも訴えました。さらに検討を働きかけます。

県議会は知事の政策に 賛成するだけの追認機関

不正経理問題が明るみに出て県庁組織を揺るがせたのは記憶に新しいところです。その頃には議員の口聞き等も日常的にあつたと思われます。財政状況が厳しくなった今、一円の税金の無駄使いも許されません。議会の役割は行政監視機能と政策立案です。

しかし行政の見張り番であるはずの県議会は、残念ながら議員同士の議論さえほとんどなく、予算・決算審査でも県庁の政策を追認するだけとなっています。そんな議会を議員同士が活発に議論する議会に変えていかなければなりません。

千葉県立消防学校・ 防災研修センター整備

(平成31年度オープン予定！)



八幡高校の近くに計画中の千葉県立消防学校。私を含め市原選出の県議4人で働きかけて実現しました。平成27年度予算は実施設計と地盤改良分の3億76百万円分、28年度から工事が始まります。完成が楽しみです。

議員のお手盛り海外派遣

議員報酬は年額1480万円、その他に政務活動費が480万円まで使えます。しかしさらに別枠で議員の海外派遣への支給を予算化しています。一昨年はカジノ視察のためシンガポール・マレーシアへ11人(他に随員職員2人)、昨年はベトナムへ15人(随員2人)、2年間分で約604万円。政務活動費で海外研修は可能なのに別会計まで作って海外へ行くのは税金のムダ使いです。私たちの反対意見は問答無用で押し切られました。議会改革の道のりは遠いけど、今後も正すべきことは主張していきます。

